

Sustainable Report 2022



▼ WEBサイト



〒812-0016
福岡県福岡市博多区博多駅南2丁目3番1-1号
TEL : 092-432-8507 / FAX : 092-432-8508



株式会社 Green prop

01	目次/編集方針/会社概要
02	トップメッセージ
03	Green propの理念
07	事業案内
09	CSR方針
11	KPI
13	TOPICS:廃棄物管理Webサービス「CHACHAT」をリリース
15	TOPICS:CSRをリニューアル
17	重点項目1:安心・安全
19	重点項目2:人財
21	重点項目3:資源循環
23	重点項目4:パートナーシップ
25	マテリアルバランス



会社概要

商号

株式会社Green prop

代表者

川添 克子

資本金

2,000万円

従業員数

37名(2022年6月現在)

グループ会社

株式会社ATGREEN
Sustaina green株式会社

拠点

📍 本社	福岡県福岡市博多区博多駅南2丁目3番1-1号
📍 物流本部	福岡県筑紫野市大字永岡1315番地-10
📍 中国支店	広島県大竹市北栄4-12
📍 東京営業所	東京都中央区日本橋兜町5-1 兜町第1平和ビル3階
📍 大牟田出張所	福岡県大牟田市健老町472番地 大牟田エコタウン内

編集方針

報告対象組織

株式会社Green prop

報告対象期間

2020年7月～2021年6月
(※一部対象期間外を含む)

発行時期

2022年6月

参考ガイドライン

環境報告ガイドライン(2018年版)
エコアクション21ガイドライン(2017年版)
SDGコンパス

お問い合わせ先

株式会社Green prop 担当:丸山
〒812-0016
福岡県福岡市博多区博多駅南2丁目3番1-1号
フリーダイヤル:0120-52-0589
E-Mail:info@greenprop.jp



みんなで歩みを進め サステナブルを実現していく。

株式会社Green prop
代表取締役

新しい社会に適応する1年

2020年度は、ウィズコロナの新しい社会において、当社のビジネスを適応させていく1年でした。内部環境の整備としては、度重なる感染拡大を受けても組織運営を継続させていくために、リモートワークの定着化に力を入れました。各部門の業務の見直しやDX化の検討、就業規則等の変更や部門ごとの運用方法改善と各種整備を行っていき、コロナのレガシーとして、新たな働き方を日常化することができています。

新サービス「CHACHAT」の誕生

また、新しいサービスとして、廃棄物管理Webサービス「CHACHAT(チャチャット)」がスタートしました。このサービスは、長年排出事業者様の廃棄物管理をサポートし続けてきたからこそ見えた業界の課題を解決したい想いからできたものです。現場主義である廃棄物管理ですが、ウィズコロナも含めた働き方の多様化という喫緊の課題と合わせて、複雑な法体系による知識や管理ノウハウの属人化による企業内での継承など、顕在化していた課題もあります。その課題を現代のIT・IoT技術により解決するサービスとして誕生しました。オンライン上に自社の廃棄物情報を集約させ、ビデオ通話や各種電子サービスと複合化させることで、非対面での廃棄物管理を可能にしています。

CHACHATは、当社のCSV(自社と社会の共有価値の創造)の形であると考えています。今後も機能やサポート等を充実させていき、より多くのみなさまにご利用いただけるよう精進して参ります。

自立型の人財を育む

未だ道半ばではありますが、重点課題として取り組んでいるのが自立型の人財育成です。中長期経営計画に基づき人事制度を作り上げて、

トライアル運用を迎える前に起きたコロナは、社員に対する想いにも変化が起きました。それは、組織ポリシーとしても掲げている「自立型未来創造主義」の浸透と実践は、急務であるということです。何が起るか分からない時代に、社員一人一人が、各々の活躍するフィールドで自ら考え、判断し、行動していくことで、私たちの提供価値は増幅していくと考えています。

そのための1つとして、2020年度は、コロナでの社会の変化を受けて行ったCSRの見直しも、各部門のリーダーのみんなと共に考えて構築していきました。各部門が担っている現場のESG課題を共有しながら進めることができ、より全社的なCSRにアップデートできました。多くのメンバーが経営の意識を持って行動していくことで、より組織力の強化が図れると感じています。

私自身は代表という役割を担っていますが、Green propは私の会社ではなく、みんなの会社です。みんながこの会社を、ステークホルダーの皆様をより愛し、みんなで会社を運営していけるよう育んでいくことに、更に力を入れていきたいと思っています。

スピード感と共創でサステナブルを実現する

環境・CSR分野では、プラスチックの有効活用や脱炭素社会の実現、サーキュラーエコノミーの構築など、持続可能な未来に向けてのキーワードが多くあります。さらにスピード感を持って、さまざまな課題の解決に動む必要があります。

持続可能な未来を創造していくために、当社の組織力向上に努め、さらに皆様と寄り添い共創できるよう、CSRを含めた組織活動に精進して参ります。今後もご指導ご鞭撻の程、宜しく願い申し上げます。

For Sustainable Tomorrows

持続可能な未来のために

— STATEMENT —

私たちGreen propグループは
持続可能な未来環境を共創するアライアンスパートナーです。

自然と社会の美しい連鎖と循環を生み出すために
企業はもちろん、自治体、NPO法人、福祉法人など

あらゆる分野の組織体と提携し

人と人、人と社会、人と自然がもっと豊かに通じ合う未来を
パートナーと共に創りあげていきます。

For Sustainable Tomorrows—持続可能な未来のために。

私たちが展開する事業は、すべてこの一点に帰着します。

その実現を自らのミッションと定め、胸に刻み

前進し続けることを、私たちはここに誓います。

01

未来から今を見つめる。

現在の価値観にとらわれるのではなく、たとえば「50年後、100年後の人々なら、どう考えるだろう」という未来からの視点で物事を考え、プランニングします。
私たちは時代の半歩先を見つめ、決して変化を恐れません。

02

お客様を徹底的に知る。

私たちが最も心を注ぐべきは取引を継続してくださっているお客様です。どうすればお役に立てるのか。自分の考えはいったん脇に置き、相手の話をよく聴いて現状を把握すること。あざやかな問題解決はその先にあるのです。

03

走りながら考える。

仕事を進める上ではスピードを重視します。危険なのは最適解を追い求めるあまり、最初の一步を踏み出さないこと。行動が先。私たちは常に走りながら新たな情報を取り込み、修正し、結果として最高のソリューションを提供します。

04

今日も笑顔の花を咲かせる。

私たちの大きな特長、それは「よく笑う」こと。社内でも取引先でも、いつも笑顔で、仕事を乐めます。壁にぶつかっても笑顔で乗り越え、肩を落としている人がいたら、笑顔で励まします。笑顔は私たちのトレードマークです。

05

人の役に立つことを喜びとする。

お客様、ともに働く社員、取引先、協力企業、同じ地域社会で暮らす人々など、目の前の人のお役に立てたとき、それが私たちにとって何ものにも代えがたい喜びです。常に「その人のために自分ができる最大のことは何か」を考えます。

06

相手のそのままを受け入れる。

人の長所をうらやんだり、短所を批判したりせず、そのままの相手を受容します。互いの違いを認め、尊重し、苦手を補いあい、良い部分が活かせる環境づくりのための工夫を続けます。私たちは様々な才能の集合体なのです。

07

「儲かりそうだから」では動かない。

業務を継続していく上で、一定の利益は必要です。ただし、「儲かるから」という理由では絶対に動きません。「持続可能な未来のために」というビジョンに沿った事業のみに絞り込み、私たちはその実現に向けてすべての力を注ぎます。

08

会話の終わりに「ありがとう」。

お客様にサービスが提供できるのは、社員だけでなく、協力会社を含めた仲間が存在があってこそです。
お客様への感謝はもちろん、ともに働く人たちとのちょっとした会話の中でも必ず「ありがとう」の一声を掛け合います。

09

常に地球環境を意識する。

私たちは業務を通じて地球環境の改善に貢献します。行動するときは必ず「地球環境の改善につながるか」と自問し、プラスになることだけに注力します。その小さな営みが、地域に、日本に、そして世界に広がることを信じます。

10

「愛」を育み続ける。

すべての根底にあるのは「愛」。私たちは愛の心を日々、大切に育み、大きくしています。そして、その愛を惜しみなく捧げることで、さらに大きな愛を手に入れます。
この愛のプラススパイラルこそが私たちの仕事の本質です。

Action guides

サービス 廃棄物事業



廃棄物に関するあらゆる お困りごとを解決

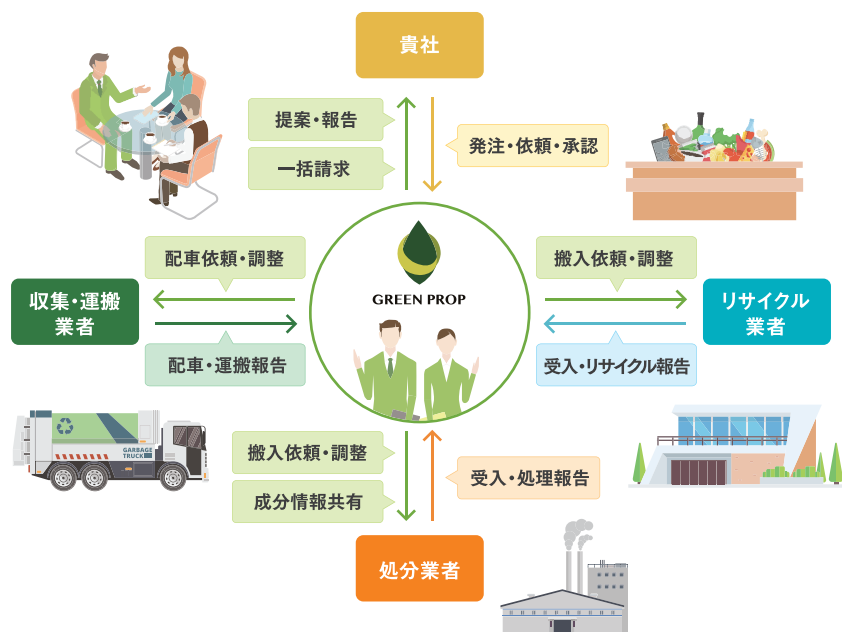
事業活動が続ける限り、廃棄物は必ず発生するものです。私たちGreen propは「持続可能な廃棄物処理」を追い続けています。当社での廃棄物収集運搬はもちろんのこと、お客様の要望から「真の課題」を見つけ、その課題解決をサポートいたします。

廃棄物管理ワンストップサービス

「廃棄物管理」と一言にいっても、適正処理やリサイクル方法、業者選定、配車、マニフェストの実績管理など、その業務内容は多種多様です。その複雑な廃棄物管理をすべて一括でお任せいただけるのが、Green propの廃棄物管理ワンストップサービスです。

まるで貴社の廃棄物担当の一員として、貴社独自の「最適な廃棄物処理」の方法を構築します。

- merit1 累計約1,000社以上かつ全国ネットワークで知識も実績も豊富
- merit2 法律にも精通しておりリスクマネジメントができる
- merit3 リサイクルにこだわった提案が可能
- merit4 窓口が一つになりご担当者様の業務負荷が低減



サービス詳細（一部）

基本サービス	業者選定
	委託先信用実績確認
	委託契約書準備
	法的手続き書類準備
	配車調整
	マニフェスト管理
	請求一括管理
	実務相談
	運用サポート など
	廃棄物分析手配
オプションサービス	アスベスト等工事請負・業者手配
	廃棄物分別・運用指導
	現地確認代行・同行
	担当者研修の開催
	電子マニフェスト移行サポート
	行政報告書作成支援 など

廃棄物の収集運搬

九州全域はもちろん、山口、広島、鳥取、島根エリアの収集も可能です。多様な品目の廃棄物収集運搬に対応するための、多様な車両を配備し、お客様のご要望にお応えします。

さらに自社車両運行に関するCO2排出量を一部カーボン・オフセットし、低炭素運行にも貢献致します。



- merit1 広域の収集運搬を1社で可能
- merit2 多様な品目を運搬できる車両を配備
- merit3 低炭素運行で環境活動にも貢献

保有車種・台数（2022年6月現在）

トレーラー	・・・	1台	4t平ボディ車	・・・	1台
ジェットパック車	・・・	12台	4tユニック車	・・・	1台
13tウイング車	・・・	2台	4tパッカー車	・・・	1台
10tローリー車	・・・	1台	2t冷凍冷蔵車	・・・	1台
10tダンプ車	・・・	2台	2tパワーゲート車	・・・	1台
10tアームロール車	・・・	3台	ハイエース	・・・	1台
7tヒアブ車	・・・	1台	乗用車	・・・	6台
7tアームロール車	・・・	2台			計36台

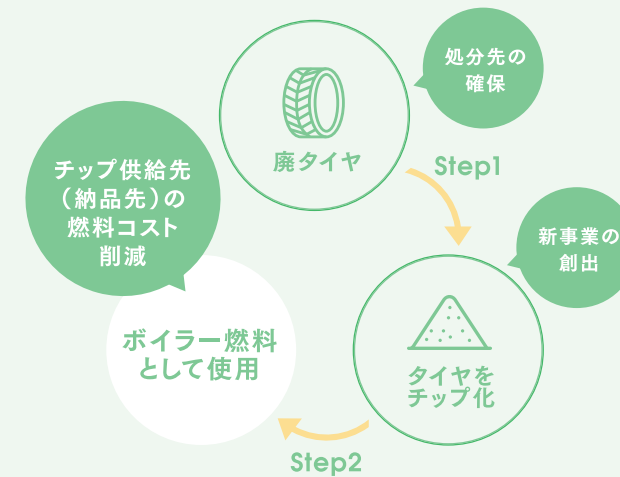
廃棄物の資源循環化サービス

廃棄物という概念のない、100%資源循環型社会へ向けて、現在の運用方法の見直しや新しい資源循環フローの構築までトータルでサポートいたします。

各企業の事業内容やお悩みに合わせて、一つ一つオーダーメイドでのご提案をさせていただきます。

- merit1 豊富な知識と経験で最適なお提案を実施
- merit2 リサイクル製品の流通まで考えてご提案
- merit3 リサイクル法等にも精通しており、リスクマネジメントにも貢献

資源循環例



廃タイヤの再資源化

以前の対応	使い古したタイヤの処分先が見つからず困っていた。
弊社からの提案	タイヤをチップ化する機械を導入し、ボイラーの燃料として使用される納品先までを手配。
結果	タイヤを処分することなく再資源化に成功。処理会社には新しいサービスが誕生し、ボイラー燃料のコスト削減も叶えた。

資源循環実績数 約120品目（リサイクルフローを構築した廃棄物の名称を当社算定）

CSR経営サポート



「CSR経営」に取り組む 企業のベストパートナー

Green propは30年以上、私たち自身がCSR経営を実践してきました。まだ社会事業という言葉もない時代から環境事業を行っており、その中で得た経験や実績を元にして、「世のため、人のため」の経営にシフトしたい企業や組織のリデザインをサポートしていきます。

CSR経営を行うメリット

01

組織力の強化と経営の安定化

CSR方針を明確にすることは、従業員への企業ビジョンの再確認や周知・浸透にも効果があります。CSRによる従業員の意識改革は企業全体の成長にもつながり、結果的に経営の安定化へとつながっていきます。

02

コンプライアンス体制の強化

コンプライアンスとは法令遵守と訳されることが多いですが、法令だけでなく企業が社会的責任を果たすことなども含まれています。そのため、CSRを策定し、発信していくことはコンプライアンスの遵守にもつながっていきます。

03

ステークホルダーの満足度向上

CSRの対象は、株主、取引先、従業員はもちろんのこと、地域住民など、企業が関係するステークホルダー(利害関係者)全てです。企業として、「どのように社会的課題に向き合い、解決を図っていくか」を発信することは、顧客満足度の向上だけでなく、ステークホルダー全体の満足度の向上に繋がっていきます。

04

企業価値・ブランドイメージの向上

CSRへの取り組みは、企業価値や企業ブランドイメージの向上にも繋がります。企業の地域社会への貢献をCSR活動報告として公開することで、企業の社会的存在の価値を証明し、企業ブランドのイメージを向上させ、競合他社と差別化も期待できます。

STEP1

戦略



CSRコンサルティング

CSR経営を行っていくには、最初にしっかりとしたCSR方針やCSR目標・計画の策定を行い、その後にCSR推進体制の構築・強化が重要です。様々な業界に精通した経験豊富な専用スタッフが貴社のCSR基盤づくりを支援します。

- ビジョン・ブランドコンセプトの整理
- CSRマネジメント体制の整備
- CSR方針とKPIの策定
- 活動実施サポート

STEP2

体制構築



環境・CSR教育

CSRを実践していくのは、実際に働く社員一人ひとりです。CSRとは何か?という基礎教育から、社員の方々に牽引する推進者向け教育、その他必要なテーマに合わせた教育などのCSRカリキュラムを組み、社内でCSRが実践されていく基盤づくりをサポートします。

- CSR基礎教育
- 各テーマ別教育
- CSR推進者向け教育

STEP3

レポート

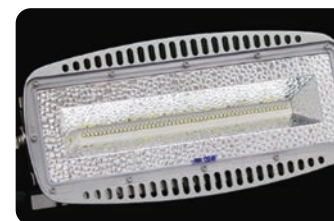


CSRレポートの企画・制作

CSR経営では、企業の取り組みをいかにステークホルダーに伝え、評価を得るかが重要です。「何を、誰に、どうやって伝えるか?」「どのように評価の声を得るか?」の最適な提案を行い、適切なコミュニケーションプランとメディア活用による、「伝わるCSR」をサポートします。

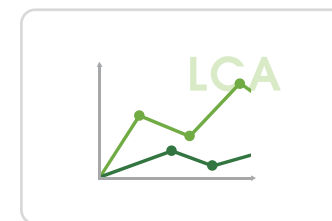
- ターゲットの選定
- メディアの選定(CSRレポート/Webサイト/動画など)
- コンテンツの選定
- フィードバック手段の選定

その他ソリューション



省エネ設備導入

LED照明導入等による省エネを実現します。



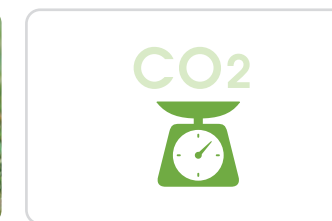
ライフサイクルアセスメント

製品やサービスの原料調達から廃棄に至る一生での環境に対する影響を定量的に評価します。



カーボンクレジット

CO₂排出について自らで削減できない分を、他の場所での排出削減・吸収量にてオフセットします。排出権クレジット創出もサポートします。



環境ラベリング

エコリーフ、カーボン・フットプリント等のラベル認定、手続きなどをサポートします。

Green prop Sustainable Way to 2030

サステナブルな社会実現に向けて、Green propは環境・CSR分野から社会課題を解決する企業へと進化する

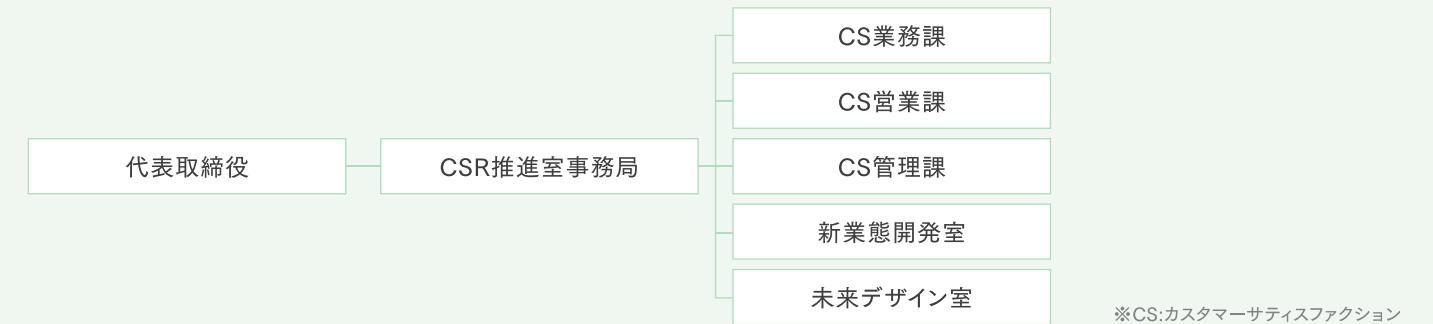
中長期経営計画を2018年に策定し、2019年に見直しを行いました。

当社のCSRは、経営計画達成に向けた重要な経営戦略の1つとして据え、重点項目を設定しました。

事業活動と密接な戦略的CSRを推進し、サステナブルな社会を実現していきます。



CSRマネジメント体制



CSR重点項目

ステークホルダーのニーズと事業活動に伴い発生する影響、Green propを取り巻く環境から関連する社会課題を捉え、4つの重点項目でCSR・CSV活動を推進していきます。

CSR重点項目	関連するSDGsGOAL	関連する優先課題 (マテリアリティ)
安全・安心 コンプライアンス順守を大前提に、安全な職場環境の確保と健全な組織運営を行い、安心を創造します。		コンプライアンス
		業務上の安全性
		安全・防災の推進
		従業員の健康・安全・福祉
人財 人を尊重し、人を愛し、人と共によりよい社会を形成できるよう、人財育成とダイバーシティ&インクルージョンを推進します。		人材確保と育成
		ダイバーシティ、インクルージョン
		環境教育
資源循環 限りある資源の調達から使用、廃棄までのライフサイクル視点で考え、環境負荷の少ない運営と資源循環の可能性を実現する循環型社会の形成を目指します。		環境負荷の低減
		温室効果ガスの排出削減
		資源とエネルギー
		廃棄物処理が環境へ与える影響
		事業を通じた環境問題解決への貢献
		革新的な廃棄物管理システム
パートナーシップ すべての活動は様々なステークホルダーの皆様とのパートナーシップにより実行できます。より強固なパートナーシップ構築を行い、サステナブルな社会を目指します。		ステークホルダーに対するエンゲージメント
		持続可能な社会への貢献
		顧客満足

CSR 重点項目	取組テーマ	関連SDGs	KPI	対象 範囲	活動内容	36期目標	36期結果	評価
安全・安心	コンプライアンス遵守 ※社員の働きやすい・働きがいのある職場環境の形成		社内規範違反及び法令違反件数	全体	1.役員が参加した部署間連携確認会議の定期開催 2.廃棄物関連法規に関する勉強会やテストの実施 3.関連資格取得の促進 4.関連法規および社内規範の遵守状況定期確認 5.クラウドシステム導入による情報の透明化と発信	0回	1回	△
			情報セキュリティ規範の整備	全体	1.適切な情報セキュリティに関する認証の選定 2.認証取得に向けた規範整備	認証取得	未着手	×
	安全な職場環境の形成		事故および労働災害発件数	全体	1.ヒヤリハットの共有と予防措置の実施 2.デジタコ・ドラレコによる運転評価と指導 3.外部講師による安全運転講習の実施 4.作業手順書の作成と運用 5.緊急事態のルール・マニュアルの整備 6.営業車両整備と点検実施	0回	0回	○
			ドライブレコーダー平均点数	収集運搬部門	1.デジタコ・ドラレコによる運転評価と指導 2.外部講師による安全運転講習の実施 3.「エコドライブ10のすすめ」を推進 4.年に1回、成績優秀者を表彰	75点	79点	○
	防災体制の構築		防災訓練回数	全体	1.各拠点にて防災訓練の実施	3回	1回	△
			BCP(事業継続計画)の策定	全体	1.BCP策定に向けた情報収集 2.BCP策定 3.BCP策定後の検証と見直し	BCP策定完了	未着手	×
	働きやすい職場環境の形成		有給休暇取得率	全体	1.半日有給制度の導入 2.有給取得状況の周知と取得促進のための声掛け 3.業務レベル均等化のための業務マニュアル作成	有給取得率70%以上	69%	△
			リモートワークの環境整備	全体	1.備品等、物理的環境整備 2.サーバーのクラウド化等ソフト環境の整備 3.Web環境の整備 4.業務帳票などのペーパーレス化推進 5.社内ルールの策定	制度準備	制度完成	○
			福利厚生制度の取得率	全体	1.現制度の整理と社内啓発 2.制度内容検討のための委員会等設置 3.制度内容検討と取得率把握	制度内容検討と取得率把握	内容検討保留	△
人財	未来創造型人材育成と適正評価 ※働きやすい・働きがいのある職場環境の形成	  	未来創造型人材教育制度の定着	全体	1.教育制度全体の運用 2.各教育コンテンツの整備 3.年間計画における教育プログラムの実行 4.定期点検を行い制度改善の実行	教育制度の運用と評価	教育制度運用	△
			公正な人事評価制度の導入	全体	1.人事評価制度の運用 2.定期点検を行い制度改善	人事評価制度の導入	人事評価制度テスト運用完了	△
	ダイバーシティ&インクルージョン	 	EG(エマジェネティクス)の導入と活用	全体	1.EGテストの実施 2.EGを活用するための制度企画 3.EGを活用した企業運営	EG活用した教育導入	EGの一部活用	△
			多様性の尊重	全体	1.社会福祉法人等からの調達	取組2件	0件	×
資源循環	CSR・環境教育[CSV]	 	CSR・環境教育等実施回数	全体	1.CSR検定勉強会等主催セミナーの開催 2.ステークホルダーからの依頼等によるCSR・環境分野の講演実施 3.本社スペースの地域開放に向けた準備	10回	5回	△
	環境負荷の低減	 	売上当たり電力使用量	全体	1.クールビズ・ウォームビズの推進 2.空調の温度設定の適正化と使用していない部屋の空調の停止徹底 3.空調機の定期清掃など適正管理による省エネ対策 4.OA機器を省電力設定にし、PC使用後は電源を切る 5.照明節電の実施	1%削減(前年比)	16%増	△
			売上当たり化石燃料使用量(ガソリン、軽油)	全体	1.デジタコ・ドラレコによる評価と運転指導 2.「エコドライブ10のすすめ」を推進 3.収集運搬車両の定期車両整備 4.営業車及び収集運搬車両の低燃費・低排ガス車導入	1%削減(前年比)	2%減	○
			水使用量	全体	1.節水ポスターの掲示	1%削減(前年比)	21%減	○
			売上あたりCO ₂ 排出量	全体	1.電力消費量削減に向けた取組みの実施 2.化石燃料使用量削減に向けた取組みの実施	1%削減(前年比)	3%増	△
			グリーン購入適合製品比率	全体	1.文房具購入の際にグリーン購入製品の導入検討 2.5S活動推進による適正な備品使用の実施	34%	30%	△
	廃棄物排出量の低減	  	一般廃棄物排出量	全体	1.封筒、クリアファイル、コピー紙の再利用促進 2.分別ボックス設置による分別の徹底 3.5S活動による無駄な購入等の削減 4.帳票等の電子化検討 5.リデュース活動の推進	1%削減(前年比)	3%増	△
	社会の資源循環率向上	  	取引におけるリサイクル率	全体	1.リサイクル率算定方法の整備 2.リサイクル率の把握 3.リサイクル率の高い処理フローの提案	現状のリサイクル率把握	未着手	×
	適正な廃棄物管理体制の構築[CSV]	 	クラウドシステムを用いた新サービス構築	全体	1.お客様マイページの作成 2.運用におけるお客様とのコミュニケーションでニーズ収集 3.マイページ各機能のブラッシュアップと新機能追加	マイページサービス整備完了	マイページサービスリリース	○
パートナーシップ	社員とのパートナーシップ ※働きやすい職場環境の形成		集会・行事開催回数(リモートを含む)	全体	1.組織情報の社内共有に向けた全社集会の定期開催 2.レクリエーション行事の開催	5回	5回	○
	お客様とのパートナーシップ		ヒアリング件数(リモートを含む)	全体	1.ヒアリングシートを活用したコミュニケーション	170件	151件	△
	協力会社とのパートナーシップ		協力会社とのコミュニケーション回数(リモートを含む)	全体	1.年1回以上の定期訪問の実施 2.市場情報の共有	40回	46回	○
	地域・社会とのパートナーシップ		地域・社会とのコミュニケーション回数	全体	1.本社スペースの地域開放に向けた準備 2.イベントの企画・運営 3.地域清掃の実施 4.CSR・環境分野のセミナー・講演実施 5.社会福祉法人等からの調達	5回	1回	△

37期～目標

関連方針	重要課題	関連SDGs	KPI	活動内容	目標値		
					2021年度 37期	2022年度 38期	2023年度 39期
E	廃棄物	  	年間一般廃棄物排出量	1.封筒、クリアファイル、コピー紙の再利用促進 2.紙ごみ分別BOX設置によるリサイクルの推進 3.備品管理の見直し、在庫発注管理の徹底と5Sによる適正利用 4.帳票・社内申請書等の電子化検討と社内規則見直し 5.電子契約の推進	36期比1%削減	36期比2%削減	36期比3%削減
			クラウドシステム構築・展開	1.CHACHATリリース・バージョンアップ 2.システムマニュアル作成・更新 3.CHACHAT操作・運用フロー定着・強化	CHACHATリリース	新規サービス開発	サービス拡大
	地球温暖化		売上あたりCO ₂ 排出量	1.電力使用量削減に向けた取組みの実施 2.化石燃料使用量削減に向けた取組みの実施	36期比1%削減	36期比2%削減	36期比3%削減
	エネルギー	 	売上あたり電気使用量	1.クールビズ・ウォームビズの推進 2.空調温度設定の適正化と未使用の部屋の空調停止徹底 3.空調機の定期清掃など適正管理による省エネ対策 4.事務所内サーキュレーターの設置 5.OA機器を省電力設定・照明節電の実施	36期比1%削減	36期比2%削減	36期比3%削減
			売上あたり化石燃料使用量(ガソリン・軽油)	1.デジタコ・ドラレコによる評価と運転指導 2.「エコドライブ10のすすめ」を推進 3.収集運搬車両及び営業車両の定期整備と低燃費車導入 4.エコタイヤの導入 5.定期的な運行ルート見直し 6.燃料使用量の集計管理と燃費推移揭示による啓発 7.非対面営業の推進による移動の削減	36期比1%削減	36期比2%削減	36期比3%削減
			年間点検実施回数	1.嘉麻太陽光発電所の月次点検実施	12回	12回	12回
	環境影響		水使用量	1.節水ポスターの掲示	36期比1%削減	36期比2%削減	36期比3%削減
			グリーン購入適合製品比率	1.文房具購入の際にグリーン購入製品の導入検討 2.5S活動推進による適正な備品使用の実施	36期比1%向上	36期比2%向上	36期比3%向上
S	労働安全衛生	  	事故及び労働災害件数	1.安全教育運転指導12項目の教育実施 2.廃棄物・車両構造・操作技術に関する教育実施 3.ヒヤリ・ハット報告の蓄積と共有 4.作業手順書の作成と活用した同乗指導実施 5.健康診断結果に応じた指導と追加検査徹底 6.熱中症対策・感染症対策の徹底・強化 7.定期的な天災・緊急事態訓練の実施	0件	0件	0件
			ドライブレコーダー平均点	1.デジタコ・ドラレコによる運転評価と指導 2.外部講師による安全運転講習の実施 3.「エコドライブ10のすすめ」を推進 4.月間ドライバー別ドラレコ平均点揭示による啓発と表彰	36期比1点向上	36期比2点向上	36期比3点向上
			テレワーク実施率	1.現状の把握、電子化推進箇所の洗い出し 2.勤怠管理等の電子化と社内規則の見直し・検討	30%	40%	50%
	人財	 	未来創造型人事制度の運用	1.職種別の基本ペルソナ設定と採用メディアの充実 2.全社統一の基本育成プログラムの企画・運用 3.職種別の育成プログラムの企画・運用 4.定期的な人事面談実施	一部運用・制度詳細設計完了	運用改善	運用改善
			多様な働き方での雇用人数	1.正社員以外の雇用(契約社員・パート社員) 2.育児・介護と仕事が両立できる環境整備	就業規則の整備	1名	1名
	地域参画		地域活動参加・実施回数	1.運搬資産を活用した連携企画 2.環境・CSRの知的財産を活用した連携企画 3.NPOなど地域団体との定期情報交換実施 4.ボランティア活動参加の推進 5.地域清掃の定期開催	20回	20回	20回
	企業倫理・コンプライアンス		内部監査指摘件数	1.組織運営における関連法規の定期更新 2.社内規範のマニュアル化によるアクセス利便性向上 3.関連法規・社会規範の定期勉強会開催 4.内部監査の強化 5.業務関連資格の取得 6.運行管理機能・個人情報管理等の強化	0件	0件	0件
			ISO27001取得	1.担当部署または取得に向けたチーム決定 2.情報収集、認証機関等選定 3.スケジュール立案、マネジメント構築、取得申請	取得	継続	見直し
	情報セキュリティ		情報セキュリティ強化施策実施件数	1.プロジェクト資料の管理方法強化 2.添付メールの暗号化 3.アライアンスパートナーとのNDA締結徹底 4.顧客情報記載書類のシュレッダー廃棄徹底	3件	2件	1件
	マネジメント	 	BCPの策定	1.拠点地域の災害リスク調査 2.中核事業における災害影響可能性想定と復旧手順設定 3.必要備蓄品の設定と購入 4.BCP計画書の作成と社内周知	BCP策定	BCP運用開始	BCP運用改善
			経費削減率	1.電子契約推進 2.拠点別会計の仕組み構築と採算管理の実施 3.来期に向けた不必要な経費の見直し	基準値算出	前年比0.1%削減	前年比0.1%削減
G	サプライチェーンマネジメント	 	情報発信	1.ターゲット設定、情報収集 2.ターゲットに向けた最新情報を各広報媒体で発信	50回	65回	80回

特集.01

廃棄物管理Webサービス「CHACHAT」をリリース



当社独自の廃棄物管理Webサービス「CHACHAT(チャチャット)」をリリースしました。
このCHACHATは、廃棄物管理に潜む課題を解決したいという思いから構想がスタートし、2021年5月にサービスを開始しました。
今回は、CHACHATの概要はもちろん、その開発秘話もご紹介いたします。

CHACHAT誕生背景

ビジネス上のあらゆるサービスがIT化されていく中で、廃棄物処理に関しては「現場・現物・現状」という3現主義がまだまだ残っていました。働き方改革なんて言われても、出社してでしか事務処理も廃棄物確認もできない。そして、法改正が頻繁に起きて複雑化する廃棄物管理は、専門性も増していき、お客様の中でも属人化が起きている…

そんな現状を打破するために構想したのが「Webサービス」です。オンラインでお客様の廃棄物処理に関する情報が集約されれば、課題解決に一役買うことができるかも！
お客様の廃棄物管理を長年サポートしてきたGreen propは立ち上がりました。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



CHACHATを利用することで、排出事業者様の廃棄物管理ノウハウや情報が蓄積され、適正処理の持続が期待できます。また、電子マニフェストや電子契約等のシステムを合わせて利用することで、関連する事務処理もオンライン上で可能。場所を選ばない働き方も実現できます。

こんなお悩みもCHACHATなら解決！

今までの廃棄物処理の場合

- 日程調整して現地調査の依頼をしないと...
- 担当者以外が状況を把握できていない
- 契約書、どこに保管したっけ？
- そもそも処分できるのかな？

管理や依頼が複雑で大変...



CHACHATの場合

- オンラインで現場確認！遠隔でタイムリーに確認できます。
- マイページで一括管理だから今の状況が誰でもひと目でわかる！
- 書類はすべてマイページで管理！電子契約も可能。
- 見積依頼や確認も気軽に問合せできる！

CHACHATがまとめて解決！

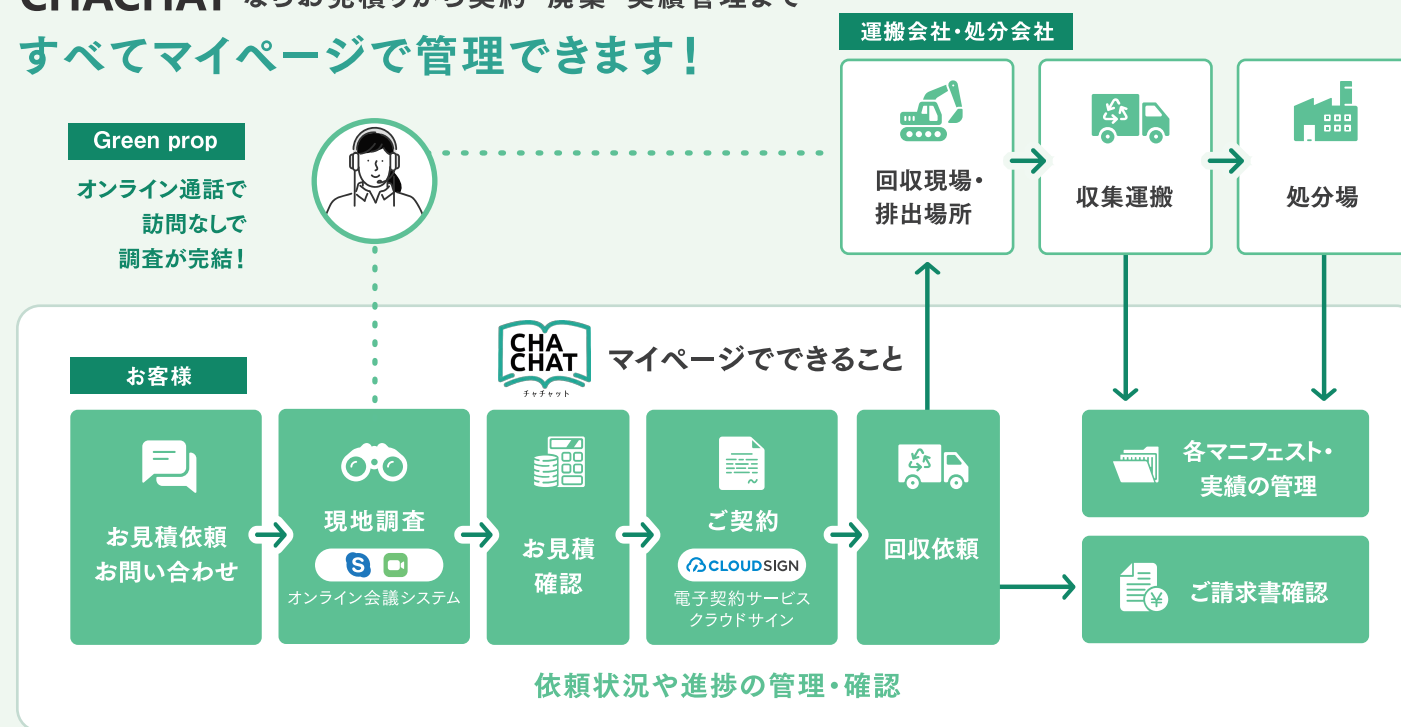


CHACHATの機能について

1. 案件管理
2. 新規依頼(見積作成・契約書作成・回収)
3. 契約書管理
4. 回収スケジュール管理
5. 実績管理
6. データ管理(請求書・許可証・その他)



CHACHAT ならお見積りから契約・廃棄・実績管理まで すべてマイページで管理できます！



「こうなったらいいだろうな!」とお客様のことを思って整えた機能を実装するために、社内運用のDX化も両輪で進めていく必要があって大変でした。また、しっかりテストを重ねていざリリース!というタイミングで不具合が起きて遅くまで対応したこともありました…。
でも、構想から2年かかってようやくリリースできた時や、お客様から「使いやすいです!」と言われた時は、とても嬉しかったです。これからも開発は進んでいきますので、ユーザーの声は私たちの原動力になっています!

開発秘話

新業態開発室

内藤 未里 永塚 誠也



お問い合わせ

新業態開発室 担当:内藤 TEL:0120-52-0589 / Mail:info@greenprop.jp

CHACHAT特設サイト
はこちらから





特集.02
CSRをリニューアル

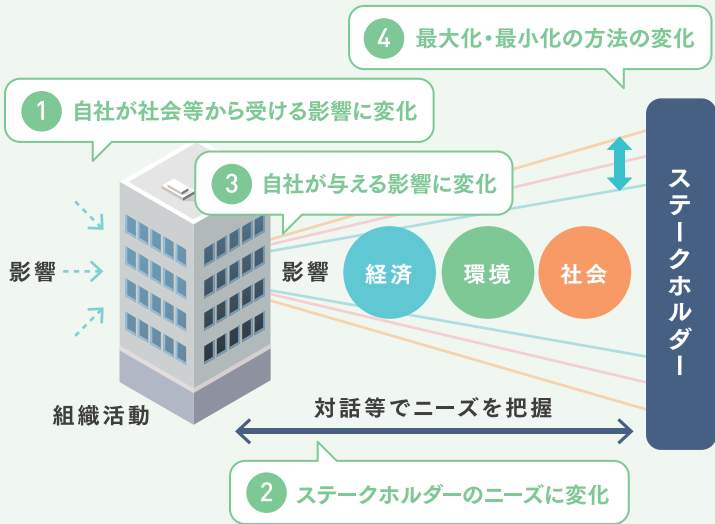
2020年2月頃から猛威を振るった新型コロナウイルス感染症。私たちの生活でも大きな変化を受け、社会が瞬間に変わっていきました。その大きな社会の変化を受けて、社会的責任を全うしていくCSRの舵の切り方にも変化があると考え、36期はCSRのリニューアルを進めていき、37期からの経営に反映させています。なぜリニューアルを考えたのか、どのように進めていったのかをお話し致します。

CSRリニューアルのきっかけ

今回のリニューアルは、新型コロナウイルス感染症の蔓延がきっかけです。社会が大きく変化し、常識も新しくなりました。これにより、自社の組織活動の方法も、ステークホルダーの期待の内容も、自社が社会に与える影響にも変化が起き、CSR活動の内容にも変化が求められます。この社会が大きく変化したタイミングでリニューアルに繋がりました。

今後も、当社が考えるCSRの4つの観点に変化が起きた時がリニューアルのタイミングと考えています。

- ① 自社が社会等から受ける影響に変化
- ② ステークホルダーのニーズに変化
- ③ 自社が与える影響に変化
- ④ 良い影響を最大化・悪い影響を最小化する方法に変化



今までは経営企画側でCSR方針等を考えてKPIを策定し各部門と役割分担する形を取っておりました。しかし、今回は、より現場に沿ったCSRへとレベルアップするために、各部門リーダーのみんなと一連のリニューアルプロセスを経て進めていきました。終日かけていろんな観点からじっくり考えていったため、終わった時は毎回みんなヘトヘトでした。そのおかげでより具体的なKPIに落とし込めたと思います。これから新しいCSR推進の形は出てくると思います。変化を恐れずみんなと試行錯誤を繰り返しながら、持続可能な企業を目指していきます。

リニューアル秘話

未来デザイン室
丸山 優実



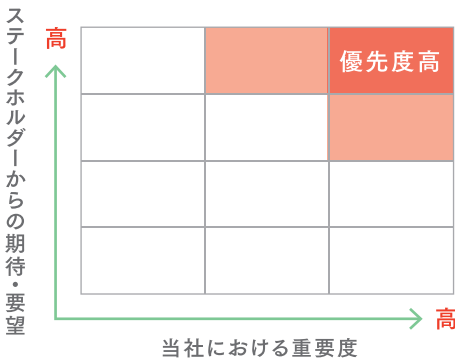
CSRリニューアルのプロセス

STEP1
自社分析

当社の重要ステークホルダー



STEP2
重要社会課題の特定



当社の重要社会課題	
廃棄物	地域参画
エネルギー	企業倫理
環境影響	コンプライアンス
異常気象	情報セキュリティ
安全	サプライチェーン
人財	マネジメント

STEP3
CSR方針の見直し

特定した重要社会課題の解決にむけて、CSRの進む方向を示す「CSR方針」が適切に見直しました。
※P12に掲載しています。

STEP4
KPI・CSR活動の見直し

「重要社会課題解決に近づいているか」の成果を図る指標(KPI)と、具体的な取り組み内容を再考しました。

STEP5
マネジメント体制の見直し

KPI達成に向けたPDCAサイクルを構築し、適宜運用・改善が図れる状態を整備しました。

37期の
経営計画として
運用

重点項目1 安全・安心

コンプライアンス遵守を大前提に
安全な職場環境の確保と健全な組織運営を行い
安心を創造します。

01 リモートワークの定着

働きやすい
職場環境形成

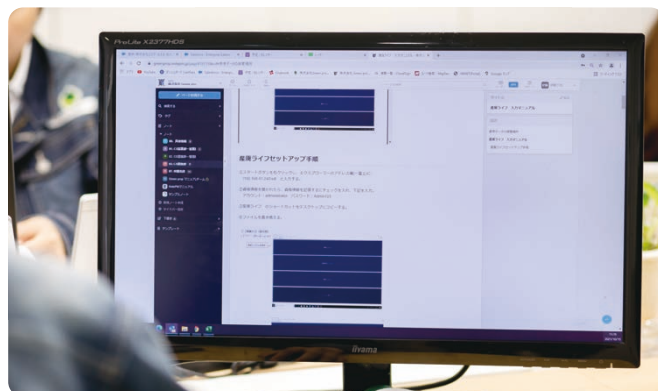


ウィズコロナでの組織運営の中で、社員の安全を第一に確保した働き方の整備として、リモートワーク環境の整備を着実に進めていきました。デスクトップパソコンを使用している社員もリモートアクセスで利用できる環境を整備し、業務マニュアルのクラウド化等を進めました。その他、お客様との商談や社内会議をリモートで行うデバイスも完備。就業規則の変更や社内ルール策定も行い、今ではリモートワークを定期的に行っています。

今後も、さらなる働き方の多様性を図っていき、社員が安心して働きやすい環境づくりへ改革を進めていきます。

リモートワークに向けた施策

- 就業規則の変更
- リモート会議デバイス設置
- リモートデスクトップ導入
- ファイルサーバーのクラウド化
- 顧客・案件情報等のクラウド化
- 業務マニュアルのクラウド化
- 社内SNSの導入
- 朝礼・終礼・会議等でビデオ会議導入



業務マニュアルをクラウド化



会議のリモート参加

02 防災訓練の開催

防災体制の構築



2021年3月4日の安全の日に、防災訓練を行いました。

本社では、アルソック様を講師にお招きし、火災時と不審者侵入時の2つのケースにおける防災訓練を実施しました。火災に関しては、手順書を基に対応の流れを確認し、デモ消火器を使った操作体験を行いました。また、不審者侵入に関しては、当社セキュリティ環境の説明と、遭遇した場合の護身術を柔道家の方に教えていただきました。

デモンストレーションを多く行うことで、実際に起きた際にどのように行動すれば良いかを身を持って学ぶことができました。定期的な防災訓練で、万が一への備えを行っていきます。

03 外部講師による安全講習会の開催

安全な職場環境の形成



物流本部での安全の日は、三菱ふそう様を講師にお招きし、車両の運行前点検に関する講習会を行いました。

車両点検項目や点検方法のポイントを解説いただき、その後は実際の車両でドライバーが点検を行う実技講習を行いました。

毎日の点検業務ですが、改めてポイントを抑えながら実技を行うことで、一つ一つの点検方法のレベルアップと技量の均等化を図ることができました。

毎日の運行を支えてくれる車両に感謝しながら、これからも安全運行レベルの向上に努めていきます。

04 エコドライブの推進

安全な職場環境の形成



当社の収集運搬サービスの更なる付加価値向上を目指して、継続してエコドライブの推進をしています。

効率の良い運行を目指すエコドライブは、同時に安全運転にもつながります。エコドライブ10のすすめの推奨はもちろん、デジタコやドラレコでの運行点数把握に努めています。急発進や急ブレーキ、加速度合いが点数に反映されるため、点数の良いドライバーの運行スタイルを共有したり、なかなか点数が伸びない場合は、同乗教育で運転のクセを把握し、安全運転の指導を行っています。

日常の運転が環境影響の低減と安全な運行につながるエコドライブを、これからも推進していきます。



重点項目2 人財

人を尊重し、人を愛し、人と共によりよい社会を形成できるよう
人材育成とダイバーシティ&インクルージョンを推進します。

01 CSR・環境教育等の実施

CSR・環境教育



36期実績

2020年9月10日	エコスタッフ・ジャパン株式会社様 「第58回 ESJ研修会」 サステナブルな企業に向けた当社の人材育成事例発表
2021年2月17日	廃棄物処理会社様 「CSR講座」 廃棄物業界の現況と環境・CSRトレンド
2021年2月17日	一般財団法人CSOネットワーク様 「中小企業におけるサステナブル経営と地域活性化について」 サステナブル経営に取り組む中小企業経営者として当社CSRの事例発表
2021年3月17日	エコスタッフ・ジャパン株式会社様 「第57回 ESJ・SDGs研修会」(当社共催) 資源循環ビジネスに携わるものができるSDGs実践方法
2021年4月8日	廃棄物処理会社様 「新入社員研修」 廃棄物処理業務の基礎、廃棄物処理業界の現況、CSR基礎講習

02 新人事制度のトライアル運用実施

未来創造型人財



当社の組織ポリシーに沿って策定した「未来創造型人事制度」は、当社の理念を土台とし、各階層の求める人財像を設定し、必要なスキルを職能項目として整理しました。社員が当社でのキャリアプランを描けるような等級制度、スキルを育んでいく教育制度、そして個々の成果と今の立ち位置を確認できる業績・職能評価制度を設けております。

2020年度はトライアル運用を実施し、実際に指標にして求める人財像を目指す社員の立場から、育んでいくリーダーの立場からと点検を行い、運用上の課題を整理していきました。

2021年度からは本格運用を開始し、自立型で社会で活躍できる人材育成を行っていきます。

03 理念研修の開催

未来創造型人財



2020年に作成した、当社の社史「Green prop History Book」を活用した理念研修を行いました。

この理念研修は、会社の歴史から大切にしている考え方をまとめた経営理念を学び、自分の仕事だけではなく、自分の人生にもどう反映していくかを目的としています。

それぞれが自分自身を内観して、自分の考えや想いを仲間に共有することで、新たな一面を知ることができ、お互いに夢を応援するような姿も見ることができました。

経営理念に共感して集まった仲間とのコミュニケーションの上に仕事があります。これからも定期的に理念研修を開催し、社員のキャリアやライフプランの実現を応援していきます。

04 EG研修の実施

ダイバーシティ&
インクルージョン



EG(エマジェネティクス)とは、人の思考を4つの特性で、行動を3つの特性で表現するプロファイリングツールで、自分自身や周りの仲間をよく理解し、その違いを受け入れることでチームビルディングやコミュニケーションに活用しています。

2017年から取り組みをスタートしており、2020年はドライバー部門への活用範囲拡大と改めてEGの理解を深めるための研修を開催しました。自分や仲間のプロフィール、それぞれの特性に合わせた情報の伝え方などを学ぶことで、個々の強みやコミュニケーションのポイントを理解していきました。

お互いの特性を認め、強みを活かして力を発揮するチームづくりを行っていきます。



重点項目3 資源循環

限りある資源の調達から使用・廃棄までのライフサイクル視点で考え、環境負荷の少ない運営と資源循環の可能性を実現する循環型社会の形成を目指します。

01 エコアクション21での環境マネジメント

EMS

2019年度より当社の環境マネジメントシステムをエコアクション21に変更し、引き続き環境マネジメントを行っております。2021年度からは対象範囲に中国支店を追加し、ガイドラインの最新版への更新も行います。

エコアクション21対象範囲(認証・登録範囲)

対象事業所：本社、物流本部

事業活動：産業廃棄物収集運搬業、特別管理産業廃棄物収集運搬業、一般貨物自動車運送業、環境コンサルタント業

TOPICS!



EA21環境経営レポート大賞・九州にて「環境経営賞」を受賞しました！

2020年度の活動をまとめた環境経営レポートについて、「環境経営賞」を受賞しました。

単なる環境経営レポートに留まらず、CSR、ESG、SDGsの取組も踏まえたレポートであること等を評価いただき、今回の受賞となりました。

環境方針



基本理念

持続可能な未来のために、事業活動と密接に絡んだ環境影響の改善を推進する。



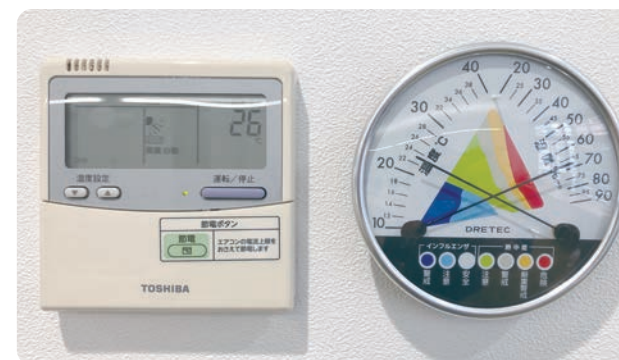
行動指針

01. 環境影響を管理するためのPDCAサイクルを確立・運用し、環境パフォーマンスの向上に向けて継続的な改善を図ります。
02. 環境関連法規の遵守とともにステークホルダーとの対話を推進していきます。
03. 省資源・省エネルギー化を図り、事業所における環境負荷低減に努めます。
04. 資源循環を当社の使命と捉え、ステークホルダーへ資源効率向上の促進を行います。
05. SDGs達成に向けて、特に環境・CSR分野におけるコミュニケーション活動を推進し、ステークホルダーと共に持続可能な未来環境の共創を目指します。

2019年4月1日
株式会社Green prop
代表取締役 川添 克子

02 空調の省エネ対策

環境負荷の低減



当社の使用電力は事務所での使用がメインで、中でも消費電力が一番多いのが空調使用に伴うものです。より効率よく空調を使用するために、適切な温度設定と定期清掃を行っています。

温度設定については、空調リモコンの横に温度計を設置し、室温に合わせて操作できる環境を整えています。また、年に3回の大掃除時にフィルター清掃を行い、省エネ対策を施しています。

03 カーボン・オフセットの実施

環境負荷の低減



カーボン・オフセットとは？

排出されるCO₂のうち、自分たちでどうしても削減できない排出量の全部または一部に関して、他の場所での排出削減・吸収量によって埋め合わせ(オフセット)することです。

36期の収集運搬車両の走行に伴って排出されたCO₂排出量の一部をカーボン・オフセットしました。オフセット量は1年間の運行に伴うCO₂排出量の約12%に当たる150t-CO₂になります。

デジタコやドラレコによる運転指導を含めたエコドライブ推進、より燃費効率の良い車両の導入などを進めることで、事業活動に伴うCO₂排出削減活動を行い、更にカーボン・オフセットを実施することで、脱炭素社会への貢献を推進していきます。

04 電子契約の導入

一般廃棄物排出量削減



一般廃棄物である紙の排出量削減、そして適正な廃棄物処理を目的に、電子契約を導入しました。

産業廃棄物処理委託に必須である契約書ですが、当社では年間2,000冊程締結します。電子契約で締結するとデータ上で承認行為を行っていくため、紙の使用や双方の捺印に向けた郵送等に伴う封筒の使用もゼロになり、大幅な削減を見込むことができます。

電子契約へ切り替えの割合はまだまだ少ないですが、お客様や協力会社様への啓発も進めていき、ステークホルダー全体での環境活動にも広がっていきます。



電子契約とは？

そもそも「契約」とは、口頭であっても双方の合意があれば契約として成立します。その証として、契約の内容を表示した文書に契約当事者同士で署名や記名押印されたものが契約書になります。

電子契約とは、この署名や記名押印による書面契約を電子的に行うもので、電子文書に電子署名を行うことで契約を締結し、それを電子データで保管しておく契約方式のことを言います。



重点項目4 パートナーシップ

すべての活動は様々なステークホルダーの皆様との
パートナーシップにより実行できます。
より強固なパートナーシップ構築を行い
サステナブルな社会を目指します。

01 社員とのコミュニケーション

社員とのパートナーシップ



経営計画の共有

当社のビジョンや目指す方向性を示した経営計画を毎年
6月に「決起集会」を開催し社員と共有しています。また、4ヶ
月ごとに計画に対する達成状況を共有し、更なる改善を図る
「シーズン振り返り会」も開催しています。

コロナ禍で全社員集合しての開催はできませんでしたが、
各拠点ごとに開催し、より所属部門に注目した経営計画の理
解を深める時間となりました。



レクリエーションの開催

業務以外の活動からも社員間のコミュニケーションを図る
ことを目的に、定期的にレクリエーションを企画・開催していま
す。

社員の誕生日の際は、毎回ケーキを買ってお祝いしたり、
12月には本社で餅つきも行いました。普段とは違う形でコミ
ュニケーションを図ることで、仲間との繋がりが深まるように
努めています。

02 メールマガジン「GREENPROGRESS」発刊

お客様・協力会社との
パートナーシップ



GREEN PROGRESS

お客様や協力会社様を中心に、当社社員と名刺交換させてい
ただいた方々向けにメールマガジン「GREENPROGRESS(グリー
ンプロッププレス)」を2021年5月より毎月発行しています。

当社のトピックスや環境・CSR分野の最新情報をまとめており、
毎月の編集会議では、「こんな話題が興味あるのでは?」「こんな質
問があり他のお客様も悩んでいるかも」とお客様や協力会社様と
の会話を思い浮かべながら、掲載内容を決めています。

非対面でも、広くステークホルダーの皆様にも少しでもお役に立て
る情報発信ができるように努めてまいります。

GREENPROGRESS History

遡ること2007年。23期のことで15年前になります。ある社員からの「もっ
と会社のことを皆さんに知ってほしい」という声がかきかけで、ニュースレ
ター「CECCメッセージ(当時社名:筑紫環境保全センター)」が発刊されま
した。当時の編集長は、現経営企画部の森松で、四半期に1度のペースで
発行されました。社内勉強会や新卒・社員紹介、身近な環境問題からドラ
イバーのおすすめSAグルメまで、多種多様な記事で構成されていました。

2013年に社名を「Green prop」に変更した後は、タイトルを「GREEN
PROGRESS」に更新し、引き続き情報発信を実施。その頃には発行部数
は1,500部を超えており、発送前はみんなで封筒に入れて糊付けする発
送作業を行っていました。時代の流れと共に紙媒体の需要が減り、メール
マガジンという形に生まれ変わりました。



2007-2009



2011-2013



2013-2017



2017-2018



2021

03 Webサイトによるコラム配信

地域・社会との
パートナーシップ



当社Webサイトでの情報発信を強化しており、毎月コラムを更新
しています。廃棄物やCSRに関する情報を社員の経験を織り交ぜ
ながら執筆しており、36期は計14本の新作コラムを公開し、合計
70,000PVを記録しました。たくさんの方にご覧いただきましたこと
を嬉しく思います。

引き続き広く地域や社会の皆様へ情報発信ができるコラムを執
筆し、少しでも環境・CSRに興味を持っていただけるよう努めてま
います。

マテリアルバランス

INPUT

エネルギー



電気

32,830kWh



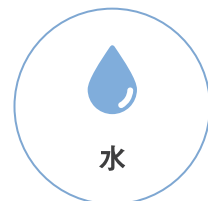
軽油

462,869ℓ



ガソリン

11,474ℓ



水

167m³



廃棄物事業

CSR経営サポート

廃棄物収集運搬量

78,200.41t

産業廃棄物	
燃え殻	467.54 t
汚泥	2,016.69 t
廃油	62.17 t
廃酸	469.23 t
廃アルカリ	740.83 t
廃プラスチック類	1,036.04 t
紙くず	26.69 t
木くず	322.36 t
動植物性残さ	180.20 t
金属くず	225.01 t
ガラスくず等	326.77 t
鉱さい	0 t
がれき類	110.54 t
ばいじん	47,001.44 t
13号廃棄物	0 t
混合廃棄物	1,502.07 t
計 54,487.58 t	

特別管理産業廃棄物	
引火性廃油	100.97 t
引火性廃油(有害)	0 t
強酸	6.76 t
強酸(有害)	0 t
強アルカリ	0.62 t
強アルカリ(有害)	0 t
感染性廃棄物	177.49 t
廃石綿等	134.71 t
鉱さい(有害)	0 t
燃え殻(有害)	0 t
廃油(有害)	3.73 t
汚泥(有害)	0 t
廃酸(有害)	0 t
廃アルカリ(有害)	0 t
ばいじん(有害)	108.07 t
計 532.35 t	
一般廃棄物・その他 23,180.48 t	

OUTPUT



CO₂排出量※

1,232.70 t-CO₂



一般廃棄物排出量

787.24kg

※エネルギー等起源のCO₂排出量を対象とし、温室効果ガス排出量 算定・報告・公表制度「電気事業者別排出係数 -H30年度実績- R2.1.7環境省・経済産業省公表」の情報で算定。電気起源のCO₂排出量算定に使用している排出係数は以下の通り。
 [本社・物流本部] 五島市民電力 排出係数(調整後 2018年) 0.307kg-CO₂/kWh
 [物流本部-洗車設備] 九州電力 排出係数(調整後 2018年) 0.347kg-CO₂/kWh
 [中国支店] 中国電力 排出係数(調整後 2018年) 0.636kg-CO₂/kWh

Green prop MEDIA



Webサイト

会社概要や事業内容、CSR方針など、当社に関する全ての情報と最新情報を更新しています。

総合情報



Sustainable Report

CSR(企業の社会的責任)についての方針や計画、活動報告などをまとめたレポートです。

CSR情報



コラム

廃棄物やエネルギー、CSRやSDGsなど、環境・CSRに関する様々な情報を、Green propフィルターを通してコラムという形で発信しています。

環境・CSR情報



メールマガジン
GREEN PROGRESS

当社の出来事やコラムの更新、その他皆様へのお知らせなど、メールマガジンを配信しています。

Green prop
最新情報

配信登録はこちら

